

柏木学園ニュース

URL <http://www.kashiwagi.ac.jp/>

平成 24 年

3 月号

No.85
奇数月発行



修学旅行 柏木学園高等学校



病院施設見学 柏木実業専門学校



スポーツデー 大和商業高等専修学校



お店屋さんごっこ 都筑ヶ丘幼稚園

春を愛でる

柏木実業専門学校 校長 平光 慎思郎

今年、は、1年13ヶ月の年である。といっても旧暦での話である。現在、巷では「閏秒」の存在が取りざたされているが、この存在もおもしろいものである。

弥生3月快い季節、季節感を味わうに良い時候である。この四季の存在は、我々にその都度一喜一憂させる。

四季の区分の方法には、天文学上と気候学上の区分があり、暦の上での区分もある。天文学上の春は、3月21日頃の春分から夏至の前日まで。これに対し気候学上の春は、3月から5月までである。

また、暦の上での春の区分は、2月4日の立春から5月4日の立夏の前日までを言う考え方と、旧暦で言う1月から3月までの月切りで考える方法もある。

この季節感と年中行事との関わりは大きいものであるが、特に農漁文化の発達した我が国では、この四季の推移が民俗行事の繁栄に左右したのである。

明治5年12月3日(この日が明治6年元日)に太陽暦の採用により、季節感と民族行事の矛盾が見られるようになり、政府機関の行事が中心の都市部では太陽暦(新暦)、潮の干満を知るのに便利な漁村のような郡部は依然として太陰暦(旧暦)が、また自然界の推移が新暦では一致しにくいという齟齬感もあり、太陽暦を使用しながら節目を1ヶ月遅らせる中暦と、三種の暦法が使用されていた。これは今なお著しい矛盾を残している。8月15日のお盆の行事もその一つであろう。

3月3日上巳の節句である。日本では桃の節句と称される。上巳とは

旧暦3月の上旬の巳の日のことである。古来中国では、この日、河で身を清めて不浄を払う習慣があった。これが平安時代に我が国に取り入れられて曲水の宴を張り、祓えを行うようになった。この祓えの時に用いた紙の人形を作り、それに汚れを移して川や海に流し不浄を祓った。各地にある流し雛の風習がこれである。この風習がひな祭りとして庶民に広がったのである。ただ、桃の花は「古事記」に登場する。

万葉集には、「春の苑紅にほう桃の花下照る道に出で立つ美人(家持)」と歌い、桃の花も春の装いの花であった。

中国古代の歌謡集「詩経」に「桃之夭夭 灼灼其華 之子于歸 宜其室家」とある。乙女子の嫁ぎ行くのを祝福する詩の一節である。

古代中国では、桃の花がいかに美しいとも、その美を詠ったことはない。他の美麗な花を持つ植物も同様である。花の美しさより、その植物の持つ信仰的な要素、あるいはそれからくる呪物的な対象物・瑞祥物として捉えられているのである。

古代文献によれば、「桃」の字音である「兆」は「分かれる」という字義であり、「始め。きざし。前ぶれ。」という意味である。「桃」の字の持つ原義は、「妊娠の兆しを示す実のなる木」の意味である。そう考えると「桃の夭夭たる」も、祝福に満ちて嫁ぎ行き、子どもを持ち、家も繁昌し、よく家庭を治める婦徳のある姿を歌っているのである。仲春の季節が桃の花の咲く頃であり、それが嫁入りの期節であったのであろう。

桃の花を愛でながら、民俗行事を繕くのも一興である。今年、は2度も春を愛でる閏3月を持つ年である。